

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0891200016		
法人名	有限会社 凜成		
事業所名	グループホーム 花あかりの家	ユニット名	(1階)
所在地	茨城県常陸太田市下利員町1262-1		
自己評価作成日	平成30年 3月 14日	評価結果市町村受理日	平成30年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&Ji_gvosvoCd=0891200016-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内
訪問調査日	平成30年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間の静かな環境の中でゆっくりのんびりと時間が流れ、毎日が入居者との笑い声や笑顔で溢れています。四季折々の景色を見ながら心地良い陽の光を浴びることができます。梅や桜、水仙の花に春を感じ、五感で四季を感じることができる幸せを入居者と職員で分かち合っています。また、近所の方々との交流もあり季節の切り花を届けていただいたり、野菜・果物のおすそ分けが届いたり、花あかりの家が地域に根付いてきていると思います。職員の笑顔が多いせいか、施設内も明るい雰囲気が入居者にも明るい声と笑顔が見られます。今後も入居者やご家族の思い・要望を支援の中に組み込んで質の良いサービスが提供できるよう努力し、居心地の良い「家」にしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は山間の長閑な場所にあり、四季折々の景色を感じられ、利用者はゆったりとした時間を過ごしている。
看護師が常勤しており、利用者の毎日の健康管理が行き届いているとともに、協力病院と24時間連携が整っており、利用者や家族の安心に繋がっている。
介護職員だけでなく、事務や敷地内の居宅介護支援事業所職員も利用者と一緒に食事を摂っており、職員と利用者のコミュニケーションが取れ、和気あいあいとした雰囲気を利用者は過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービスの資質を高め、それが地域に貢献していくことになるという意味が込められている。朝礼の際に「資質の向上に努め地域に貢献します。」という理念を復唱している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、事務室やユニットに掲示するとともに、朝礼時や職員会議時に確認して、理念に沿ったケアが実践できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年10月の秋祭りは雨天・室内開催だったのでご近所への呼び掛けはしなかった。毎年地域の夏祭りに参加している。ご近所の方が四季折々の花や野菜を届けてくれた際に一緒にお茶を飲んだりしている。	地域の夏祭りに参加したり、事業所主催の秋祭りには、地域の方が参加して三味線や太鼓の演奏をしてくれる。近隣住民が野菜や花の差し入れをしてくれ、その際に一緒にお茶を飲むなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方やご家族代表の方に入居者の状態を把握してもらい理解をしていただいている。ご家族代表の方にも貴重な意見をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議では役所の方、地域の方、ご家族代表の方に入居者の状態や状況を報告し要望などを聞き入居者のことを理解していただき今後の取り組みについて助言をいただいたり話し合っている。	家族等の代表や市職員、民生委員等が参加し、行事や利用者の状況、事業所の取り組み等について報告をするほか、AED講習会を開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して入居者の現状や状態を報告し、市の関係者に理解をしていただいている。空き状況を伝えコンタクトをとっている。	市の担当者が運営推進会議に出席しているほか、電話だけでなく事務担当者等が直接市に出向き、入居状況を伝えたり、アドバイスを受けるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関前廊下のガラス戸を施錠している。以前は胃瘻造設者に経管液注入中ミトンをしていたが現在はしていない。	職員は月1回のミーティング時に身体拘束について話し合い、職員間で共有している。身体拘束排除に関するマニュアルがあり、内部研修を年1回行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	役所からの通達や情報をもとに毎月行なっているミーティングで説明や研修を行ない、現場で虐待行為を行っていないかの確認を行ない話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会はあるものの活用までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約に関しては、主に社長が契約や入所に関しての説明を行ない、納得された上で入所されている。管理者も時間の都合が合う時は立ち会っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会の際には状態を報告し意見や要望などを聞くようにしている。本人にとってより良いサービスを行なえるように心掛けている。	家族等からは面会時や新年会に行う家族会のときに、意見や要望を聴くようにしている。重要事項説明書に苦情受付相談窓口を明記している。家族会の会長も苦情相談の窓口になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は主に月1回のミーティングで一人一人から話を聞くようにしている。またミーティング以外でも朝礼時や現場などでできるだけ一人一人から話を聞くようにしている。	管理者は、職員会議時に意見や提案を聞くほか、日頃から話しやすい関係づくりに努めている。ヒヤリハット報告書の書式が書きにくいとの声を受け、様式を変更したところ、上がってくるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年各スタッフと面談を行ない要望や意見を聞く機会を設けているがそれ以外でも朝礼やミーティング、現場などで普段から要望や意見を聞いてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者やスタッフが受けてきた研修を全スタッフに理解してもらうために資料の配布や勉強会を実施している。月1回の割合で社内研修を予定しているが毎月実施できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会やケアマネジャー連絡協議会の催す研修会に参加を呼び掛けたり参加して勉強会の参考にさせてもらっている。興味のある研修にスタッフ個人が参加する機会も増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に担当ケアマネージャーから情報をもって参考にしながら、本人と面会をし本人の気持ちや要望を導き出せるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様面会をし要望などを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者一人一人が必要としている支援を見極めその時に合ったサービスを実践できるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に話をしたり食事をしたり寄り添いながら、入居者の気持ち・思いを受け止めることで入居者との関係を深められるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはできるだけ面会に来ていただき顔を見せて話をさせていただくことで入居者との絆を大事にしてもらっている。面会に来られた際には状態を報告し本人にとってより良いサービスを行なえるよう心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来た知人や親戚の方に再度来所してもらえるよう声掛けをしている。また病院や地域の催し物などで知人に遭遇し会話をすることで再度親交が深められ楽しみとなるような関わりを持てるようにしている。	入居時のフェイスシートやアセスメントシート の他、家族等の来訪時や利用者との日々の会話などから把握に努め、関係継続のための支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけホールで過ごしてもらうようにし、リズム体操や口腔体操・レクリエーションに参加してもらい入居者同士が関わって楽しめるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時にはいつでも気軽に訪問していただけるように声掛けをしている。時折懐かしく訪問してくれたり野菜を届けてくれるご家族がいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に生活歴や入所までの経過や思いなどの情報を収集しスタッフが把握できるようにしている。入所後はケース記録に記入したり朝礼や申し送りなどで報告し思いや意向の把握に努めている。	入居時のフェイスシートやアセスメントシートの他、日々の生活の中で利用者の会話や行動を観察しながら、思いや意向の把握に努めている。利用者の経過記録表に項目を設け、職員は利用者のつぶやきを記載し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の基本情報書に記入された生活歴や入所までの経過や思いなどの情報をスタッフが把握できるようにしている。入所後は支援の中で得た情報を共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人のできること(残存能力)・状態を把握し情報を共有して支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ一人一人から意見を聞いたり本人やご家族から意見や要望を聞き入れてケアプランを作成するようにしている。	家族等や利用者からの要望や、医師からの意見書を基に、介護計画を作成し、半年毎にモニタリングを行い、見直しを行っている。面会に来られない家族等への周知が不十分である。	面会に来られない家族等への介護計画書の説明、周知の方法を検討し、実践することを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果は毎日のケース記録にその時対応したスタッフが随時書き込むようにしている。その情報は1日の申し送りとして伝えスタッフ全員で共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族から意見や要望を聞くようにしている。現在は毎月整体師にマッサージを、2ヶ月に1回理容師に散髪をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々ボランティアの方に話し相手やレクリエーションをしてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に本人やご家族から希望を聞いている。特に希望がない場合は自所協力医院を勧めている。	契約時にかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。常勤看護師2名が日頃の健康チェックをし、協力病院とは24時間連携が取れる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態の把握を行ない気づきのあった時点で看護師に報告し相談、状態を見てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はサマリーを作成し病院に情報提供をしている。看護師や管理者は随時面会し病院関係者やご家族と情報を交換したり相談しながら状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時にご家族の意向を聞くようにしている。重度化した場合ご家族との話し合いを持ちご家族の思いを確認している。	重度化した場合における対応に係る指針があり、入居時に指針に基づき説明し、書面にて同意を得ている。利用者が重度化や終末期の状態になった場合には、協力医療機関の医師と家族等を交えて十分な話し合いを行い、方針の統一を図ることとしている。	看取りを行う事業所として、具体的な看取りの手順書の整備を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は定期的には実施しないと理解できないので年間の訓練を計画したいが実施できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月に夜間想定、11月に昼間想定避難訓練を行なった。日頃から災害が起きた時にどうしたらいいかを話し合いスタッフ全員が身につけられるようにしたい。	夜間想定を含む避難訓練を行い、訓練後は反省会を行い課題について話し合っている。地域住民の参加の呼びかけを行うまでには至っていない。	地域住民の参加の呼びかけをし、反省点を活かした避難訓練の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気をつけ声掛けをしている。トイレの声掛けや排便の有無の確認は本人だけに聞こえるように小声でするようにしている。入浴時ロールカーテン使用、トイレの介助時はカーテンを閉めるようにしている。	職員は、人生の先輩としての利用者の尊厳やプライバシーを損ねないように言葉かけに配慮している。トイレ誘導の際には小声で声掛けし、カーテンや扉を閉めて待つようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できない入居者には声掛けを密にできるだけ本人の思いや希望を聞き出すようにして、それをスタッフが共有することで日常のケアに繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはスタッフの1日の流れに沿って生活してもらっているが、本人の希望や都合を聞きながら声掛けまたは本人の状態を把握しながら、その時その時でより良い対応ができるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時々スタッフがリップクリームや口紅・マニキュアをしてあげたり、外出時はその時期に合った洋服を着てもらおうように心掛けスカーフや帽子などでその人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと入居者と一緒に食事をしている。入居者から好きな物を聞いてお楽しみメニューとして刺身やラーメンなどにしている。以前は野菜の皮むきや食器拭きを手伝ってもらったこともあったが現在はしていない。	事務職員や居宅介護支援職員も一緒に食事を摂っており、賑やかで和気あいあいとした雰囲気である。外食や季節毎の行事食、誕生日等の特別な日の食事に工夫をして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に食事・水分量をチェックしているのでそれを見ながら調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし口腔ケアを行なっている。口腔内の状態に応じ歯ブラシとスポンジを使い分けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間のみオムツ対応や尿器使用の入居者がいるが、日中はリハビリパンツに替えてトイレに誘導し排泄してもらい、状態に合わせての支援を心掛けている。	排泄チェック表や個人記録を活用し、パターンを把握してそれぞれに合わせた声掛け誘導により、トイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見ながら毎日の排便の確認を行ない、便秘気味の入居者にはマッサージをしたり水分や食べ物を工夫したり、または主治医指示の薬を調節しながら便秘にならないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入りたい希望がある時はできるだけ入浴できるようにしている。拒否をする入居者には声掛けの工夫やタイミングを見計らって入浴できるように心掛けている。	入浴は利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。利用者が入浴を楽しめるように、入浴剤を使用している。入浴を拒む利用者には時間や声を掛ける職員を替えるほか、清拭や足浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人にとって一番良い1日のリズムができるようにスタッフ全員で支援している。入居者によっては昼寝をしない方もいるので、その時の状態に合わせたケアを判断して行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐために服薬させる前に必ず名前を確認すること、また服薬させるスタッフをあらかじめ決めていく。別なスタッフが関わる時は必ず声掛けをしてから行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が好きなおこと、趣味などについての話をしながら日々の生活の中に取り込んで活かせるようにしている。そろばんでの計算、洗濯物たたみ・新聞紙たたみ・食器拭きなどを手伝ってもらうことがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を楽しめるように外出の機会を設けたいが、施設全体ではなかなか一人一人の希望に沿った外出はできていない。暖かい時期はできるだけ外気に触れる機会を持つようにしている。一部の入居者はご家族の協力で行き先を楽しんでいる。	天気の良い日には、事業所内を散歩したり外気浴をしている。車椅子の利用者も一緒に親水公園などに外出し、気分転換を図っている。年間行事計画を立て、車いすの利用者も一緒に初詣や季節の花見、鯉のぼり、紅葉狩り、かかし祭りなどに出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者はお金(小銭)を所持しています。特に使うことはなくいつも枕元に置いてあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者は電話をかけた手紙を書くことはない。ただ帰宅願望が強い入居者に対しては内線電話を使って電話をかけたりメモ用紙にご家族宛に手紙を書くように勧め書いてもらうことはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族・近所の方からいただいたりスタッフが持参した花を飾ったり季節に沿った飾りつけをしている。ホールには入居者が染めたぬりえを貼ったり季節ごとに雛飾りやこいのぼり・クリスマスツリーを飾ったりして四季を楽しんでもらえるようにしている。	居間兼食堂は天井が高く明るく広々としている。季節の花を飾ったり、マッサージチェアやソファを配置し、利用者が思い思いに寛げる空間となっている。居間や廊下の壁に鯉のぼりの貼り絵作品などを飾り、季節を感じ楽しめるように工夫している。2階の踊り場には造花や日本人形、籐椅子、テーブルを配置し居心地よく過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置いたり写真・ぬりえ・制作物を飾ったりして、入居者が立ち止まれる場所を作っている。天気が良く暖かい日には外気浴をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお願いして使い慣れたものを持ってきていただいたり写真を飾ったりして少しでも居心地の良い部屋になるように心掛けている。	利用者の使い慣れたテレビや衣装ケース、家族の写真、ソファ、ぬいぐるみを持ち込んで居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物が広々とした設計になっているので、長い廊下を活かして歩行訓練を行ったりベッドやイスなどは入居者に合った安全でかつ自立できるような物を選んで様子を見ています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 _____

作成日 平成30年 9月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	面会に来られない家族等への介護計画書の説明、周知の方法を検討し、実践することを期待する。	定期的にご家族に来所して頂き、介護計画書の説明をし、周知して頂く。	6カ月ごとにご家族に連絡し、来所して頂きサインをしてもらう。	6ヶ月
2	33	看取りを行う事業所として、具体的な看取りの手順の整備を期待する。	看取りに関する説明書また、マニュアル等の具体的な文書作成。	看護師と共に協議し合い、具体的な文書作成に取り組む。	6ヶ月
3	35	地域住民の参加の呼びかけをし、反省点を活かした避難訓練の実施を期待する。	地域住民との一体化・協力要請。	地域住民に1年に1回声掛けをして、消防訓練に参加して頂く。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。